



人間牧場主・年輪塾々長
若松 進一

田舎の閉塞感を 打ち破る集落営農

日本の各地を訪ねると、①学校の統廃合、②公共交通機関の廃止、③商店街の沈滞、④伝統文化の消滅、⑤山林や農地の荒廃、⑥限界集落の増加、⑦消え行く組織（青年団・婦人会・子ども会・PTA・消防団）、⑧第一次産業の不振、⑨合併による行政サービスの低下、⑩防犯・防災能力の低下などで「縮み行く社会」を実感し、あと十年もしたらこの国はどうなるのだろうと、日本の田舎の危なさをしみじみ思うのです。

一方農村に足を踏み入れ、集落に暮らしている人たちに話を聞くと、先ず最初に出てくるのは、「みんな歳をとった」という少し諦めにも似た言葉です。その裏にはこれまで高度成長の波に乗って、農村を支え続けてきた人たちがふと後ろを向けば、バトンを渡すべき担い手がいない



集落の共同作業（大栄集落）

いことに気づき、将来への不安が見え隠れするので。また「独居老人が増え、最近では空き家も目立つようになって、集落に活気がなくなつた」と言い、加えて荒れた田圃や畑が目につくようになり、イノシシやカラスといった獣が、わが物顔に農作物を横取りし、「日々の暮らしに疲れ果て、生きる力も出ない」と嘆くのです。

こんな疲弊した農村集落を目の当たりにして、心を痛めるのは私一人ではないと思いますが、やらないことをやれない

と言っている農業を取り巻く関係者に、もつと真剣に人々の暮らしに向き合い、考えて欲しいと願わずにはいられないのです。

さて集落営農とは、「一人ひとりの農家で解決できない地域の色々な問題を集落のみんなの智慧と力を合わせて解決し、農業も集落もみんなが良くなるよう進めてゆくこと、そしてより豊かな未来づくりにつなげてゆくこと」ですが、土地が個人的な持ち物だけに集落営農は口で言うほど生易しいものではないのです。

私はこれまで、長年地域づくりに関わってきましたが、集落営農の進め方や手法は私たちがこれまで進めてきた、地域づくりそのものだとしみじみ思うのです。集落営農の進め方を大まかに列記すると次のようになります。

- ①アンケート調査やワークショップで実態と問題点を把握する。
- ②問題を解決するためにどうすればいいか話し合う。
- ③集落営農の方法を学ぶ。
 - ・農地を持ち寄る。
 - ・施設設備を共有する。
 - ・共同で農作業をする。
 - ・会社を作る。
- ④集落営農のメリットを学ぶ。
 - ・資金計画を立てる。
 - ・無駄が省ける。
 - ・助け合える。

- ・規模拡大ができる。
- ・新たな分野への挑戦ができる。
- ・所得が向上する。
- ・財産が守れる。

・国や県の助成制度や税制の優遇措置が受けられる。

・集落維持が持続できる。

⑤10年後のビジョンを描き行動計画を立てる。

⑥ビジョンを目標に行動計画に沿って実践する。

私が集落営農に着目するのは、これまでの集落営農はどちらかというと農業をどうするかといった考え方が主流を占めていて、集落の日々の暮らしをどうするかという視点が、余り見られなかったことです。地域貢献型集落営農とでもいべき現代の集落営農は、①農業・農地の維持、②地域経済の維持、③生活の維持、④人材の維持という4つの維持を協働で図ろうとするものです。

集落営農を目指すポイントには色々ありますが、①農作業の受託（地域の農用地面積の相当部分の農作業を受託することを目指していること）、②規約（代表者・構成員の加入及び脱退、総会の議決事項や方法、農用地や農業用機械などの利用及び管理に関することを定めた規約を有していること）、③経理（構成員全てで費用を共同負担するとともに、利益を分配していること）、④主たる従事者（主たる

従事者について一定の農業所得額の目標を設定すること）、⑤将来の構想（農業生産法人になることに関する計画を有しており、その達成が確実に見込まれ、将来効率的かつ安定的な形態に発展すること）など、農業・農地の維持や経済の安定化・多角化の維持を図ることは勿論ですが、生活の維持と人材の維持はサステイナブル社会を形成していく上でとても貴重だと思ふのです。道普請による道路網の管理や簡易水道の管理のような、直接暮らしに結びつくことは勿論のこと、地域のためになるはずの農協や商店さえも撤退した日用品販売、ガソリンスタンドに加え、神社仏閣の維持存続に至るまで、生活の維持を集落営農が賄うのです。

また集落営農によって生み出される雇用によって、Uターンや新規就農者の受け入れが可能となり、担い手不在の解消や人材の確保が可能となるのです。日本の田舎はこれまで都会に憧れる向都離村の教育をしてきました。しかしこれからは田舎でスローライフな生き方に価値観を見出す、離都向村運動を起こさなければなりません。その最後の切り札は「集落営農」のような気がするのです。



本谷集落から見える夕日と棚田

都会出て 出世するよな 教育を
してきた結果 田舎は過疎に
空気・水 食べ物までが 美味しくて
のんびり暮らす 田舎樂園
言葉では 難し過ぎて 分からねが
集落営農 最後切り札
この町で 生まれ育って 結婚し
暮らして死ぬる これぞ本懐
(若松進一笑売啖呵より)